

令和6（2024）年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業

通いの場などの介護予防に資する取組の効果的な普及啓 発の手法に関する調査研究事業 報告会

これからの通いの場

一般社団法人 日本老年学的評価研究機構（JAGES機構）

2025年3月10日

一般介護予防は、通いの場（社会参加型）へシフト

専門職などが主導
した介護予防教室

従前の介護予防（ハイリスクアプローチ）

行政が**提供者**・住民が**受給者**

狭義の通いの場

平成26年
地域づくりによる
介護予防

これからの介護予防（ポピュレーションアプローチ）

住民が**運営者**・行政が**支援者**

広義の通いの場

令和元年
厚生労働省一般介護
予防検討会指針

通いの場の**多様性・機能強化**
PDCA に沿った事業展開

介護予防教室 閑古鳥

介護予防事業の
対象となる特定
高齢者が、把握
できない。参加
希望者がいない。

ー目標の高齢者
 人口5% vs
 現実には0.2%
 (厚労省調査でも0.14%)

CHIBA UNIVERSITY

介護予防 出足は低調

「介入が効果になりそうなのは、要介護状態になるのを防ぐ」と導入された介護予防事業で、都市部の「介護予防車」の配備が、国の目標を大きく下回っていることが、朝日新聞の全国調査でわかった。厚生労働省は高齢者のお年寄りの約5を自営としているが、15の政令指定都市では平均0.7をみた。事業がスタートして半年余り、要介護者不足で予防車が働かないなど、出足は順調とはいえない状況だ。（坂根哲也）

予備軍把握 5%目標
指定市0.2%

厚労省は、ら3年かけて「昔」と呼ばれたい考えで、今年増体とも2.5%にしている。の都道府県か現時点の把握0.9%(4)が、自治体側口の少ない自治落りの状態すが、都市いこの声が出るため、7月から8月

閑古鳥

症状なく「私は元気」

介護老人ホームに入居するまで予防してあげよう、といふ意味では、いかに早く、思わぬ間に突如として、認知症の症状があらわれ、常服薬で「うつ」状態になってしまうか、むすむすの状態の進行や検査で認知症、予防したいと思ふ方たちを支援したい。なかで、患者を認知症と呼ぶといふ、予防支援を必要とする。Aは認知症と予防支援、患者と支援者の関係について、

（認知症）———支援者

介護予備軍 伸びぬ参加

2006.10.29
朝日新聞

予防教室



時時刻刻

地域に出カ

一、定例として、公債の発行、

日本老年学的評価研究

JAGES調査フィールド

■ 2022調査協力保険者
■ 過去の協力保険者

JAGES 2022

参加市町村数 75
送付数 約33.9万人
回収数 約22.8万人
回収率 約67.4 %
(2023年3月13日時点)

JAGES 2019/20

参加市町村数:66 送付数 約38.5万人
回収数 約26.5万人 回収率 約68.8%

JAGES 2016/17

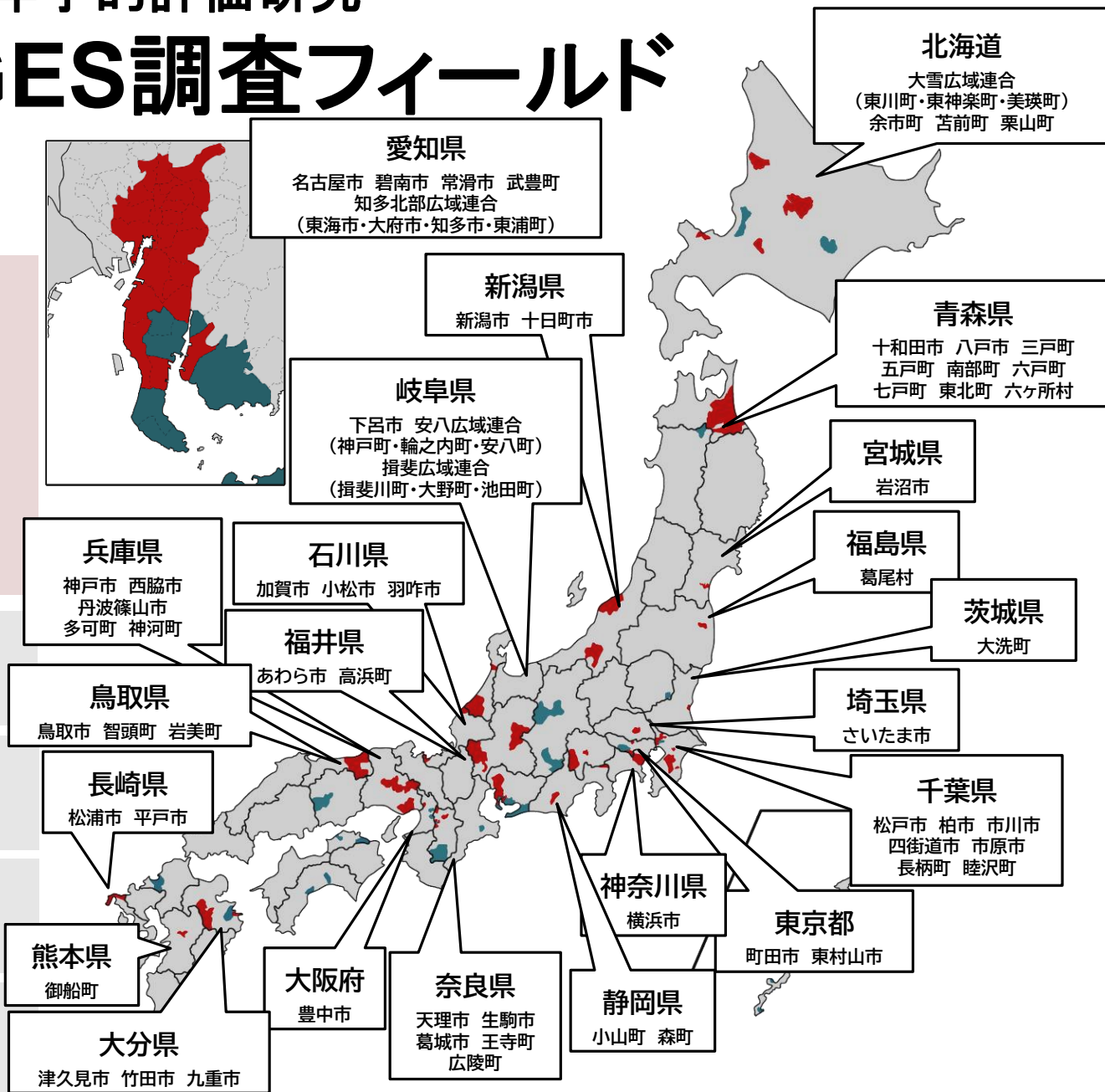
参加市町村数:41 送付数 約30万人
回収数 約20万人 回収率 約69.5%

JAGES 2013/14

参加市町村数 30 送付数 約19.5万人
回収数 約13.8万人 回収率 約70.8%

JAGES 2010/11

参加市町村数 31 送付数 約16.9万人
回収数 約11.2万人 回収率 約66.3%



社会参加と介護予防効果の関係について

スポーツ関係・ボランティア・趣味関係のグループ等への社会参加の割合が高い地域ほど、転倒や認知症やうつ病のリスクが低い傾向がみられる。

調査方法

2010年8月～2012年1月にかけて、北海道、東北、関東、東海、関西、中国、九州、沖縄地方に分布する31自治体に居住する高齢者のうち、要介護認定を受けていない高齢者169,201人を対象に、郵送調査(一部の自治体は訪問調査)を実施。
112,123人から回答。
(回収率66.3%)

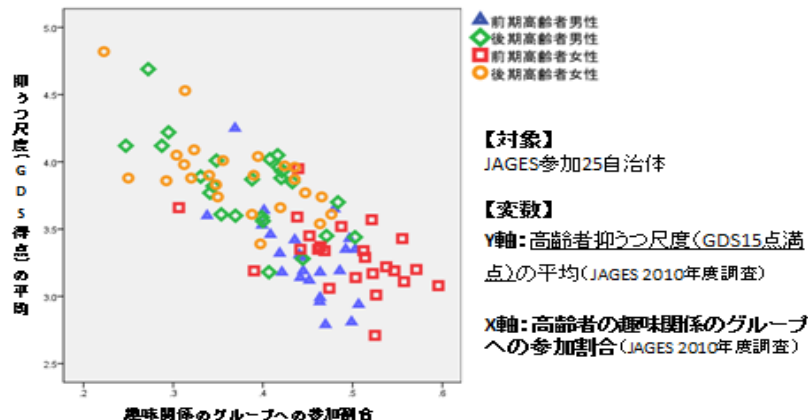
【研究デザインと分析方法】

研究デザイン: 横断研究
分析方法: 地域相関分析

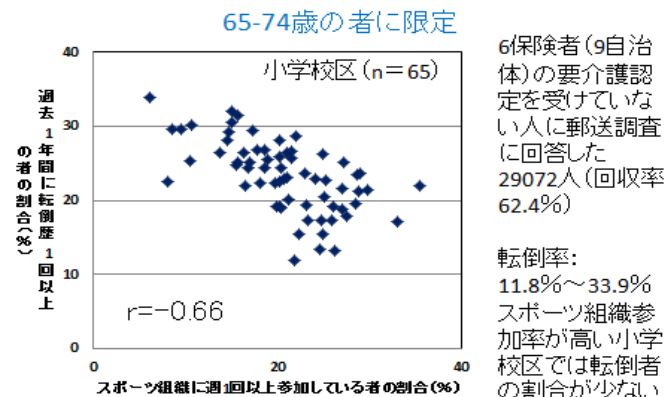
JAGES(日本老年学的評価研究)プロジェクト



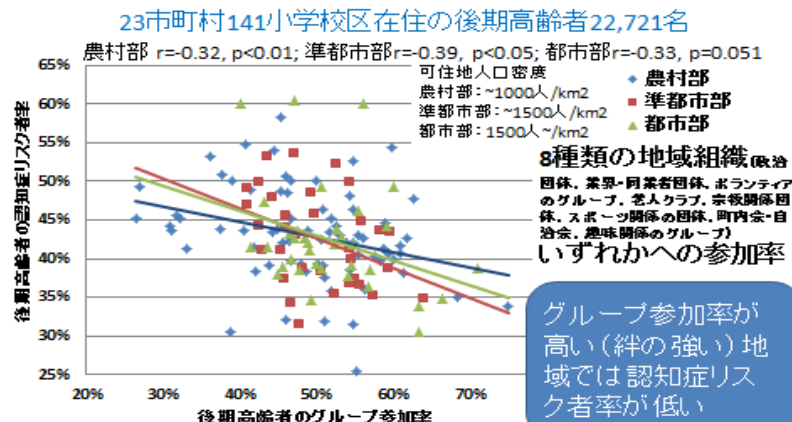
趣味関係のグループへの参加割合が高い地域ほど、うつ得点(低いほど良い)の平均点が低い相関が認められた。



スポーツ組織への参加割合が高い地域ほど、過去1年間に転倒したことのある前期高齢者が少ない相関が認められた。



ボランティアグループ等の地域組織への参加割合が高い地域ほど、認知症リスクを有する後期高齢者の割合が少ない相関が認められた。

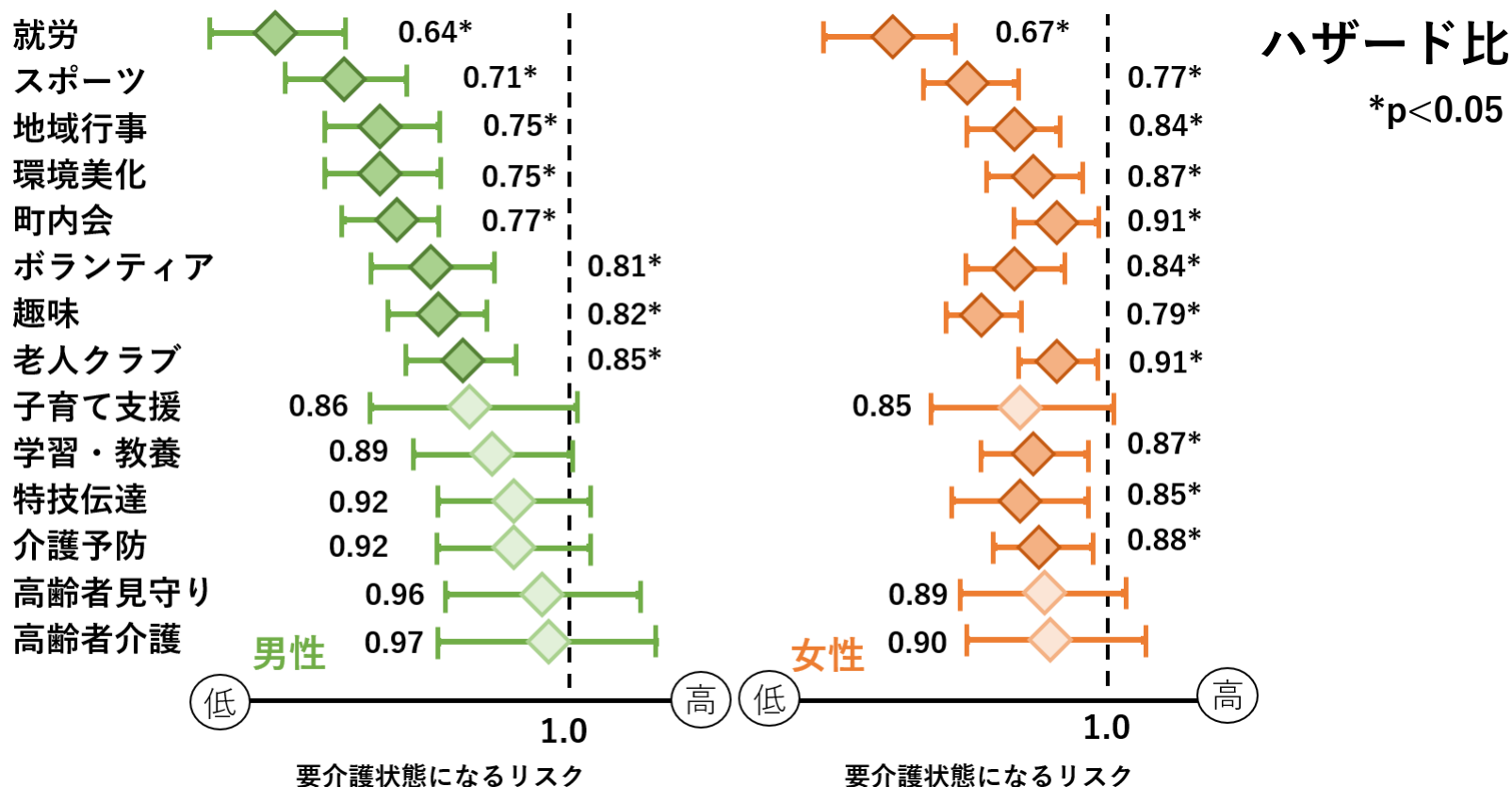


参加している組織の種類と要介護リスク

対象

JAGES2013回答者を約3年追跡：高齢者90,889名

男性42,659名（平均年齢73.5±6.0歳），女性48,230名（平均年齢73.8±6.1歳）



各組織への不参加を基準(1.0)とし，要介護リスク(%)を数値化

年齢，等価所得，教育歴，婚姻状況，健康状態，喫煙，飲酒，うつ，IADL，可住地人口密度を調整済み

武豊町【憩いサロン・各会場の取り組み】

【主な活動・・・毎月】

☆ 健康体操

- ・講師の指導のもとで実施

☆ 誕生会

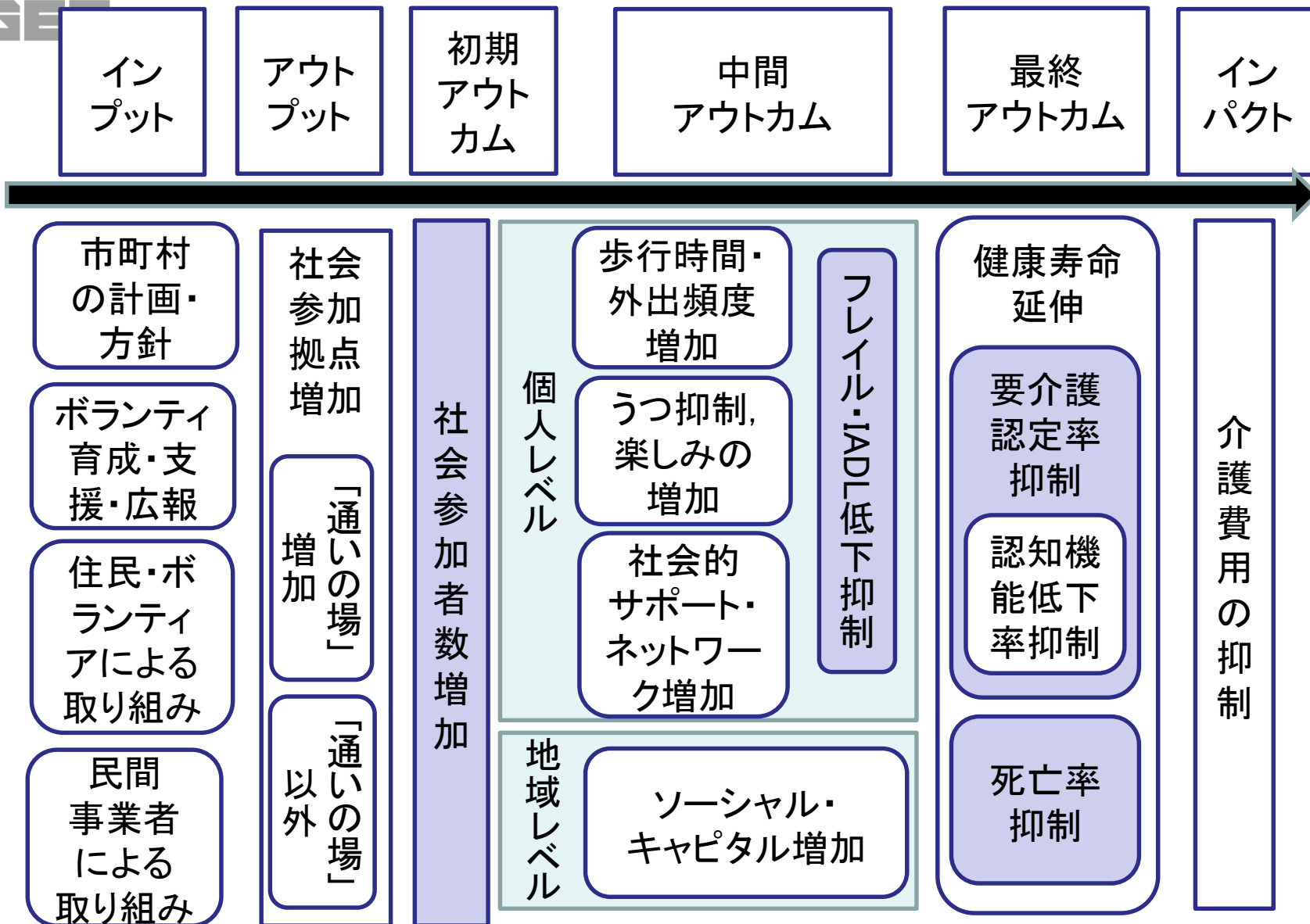
- ・誕生月の方を全員で祝う

☆ おしゃべり＆お茶タイム

- ・コーヒーを飲みながらおしゃべりを楽しむ



介護予防事業のロジックモデル



通いの場参加と健康に関するエビデンス

通いの場参加の
関連要因

環境要因

- 通いの場までの距離^A

個人・行動

□ 要介護リスク^c

□ 社会経済階層^{B,a,b}

ライフコース・環境・健康の社会的決定要因など

通いの場参加

個人・行動

- 歩く機会^{↑C}
- 外出機会^{↑C}
- 会話の機会^{↑C}
- 健康に関する情報^{↑D}
- 健康に対する意識^{↑E,d}

中間アウトカム

歩行量・社会参加など

- 主観的健康感^{↑A,C,E}
- 社会的サポート^{↑F}
- 効力感^{↑F}
- 話し相手^{↑F}
- 他の組織への参加^{↑C,E,G,b}
- IADL低下^{*1 ↓G}

アウトカム (効果・成果)

要介護6リスクなど

- フレイル^{↓e}
- うつ^{↓f}
- 要介護リスク^{*2}
- 悪化^{↓H,g}

*2：要支援・要介護リスク評価尺度

インパクト (長期効果)

介護給付費・死亡率など

- 要介護認定^{↓I,h}
- 認知症発症^{↓J}

*1：手段的日常生活動作（Instrumental Activities of Daily Living）

凡例

- ：縦断研究
- ：横断研究
- ↑：増加
- ↓：減少

A～J)：一市町をフィールド

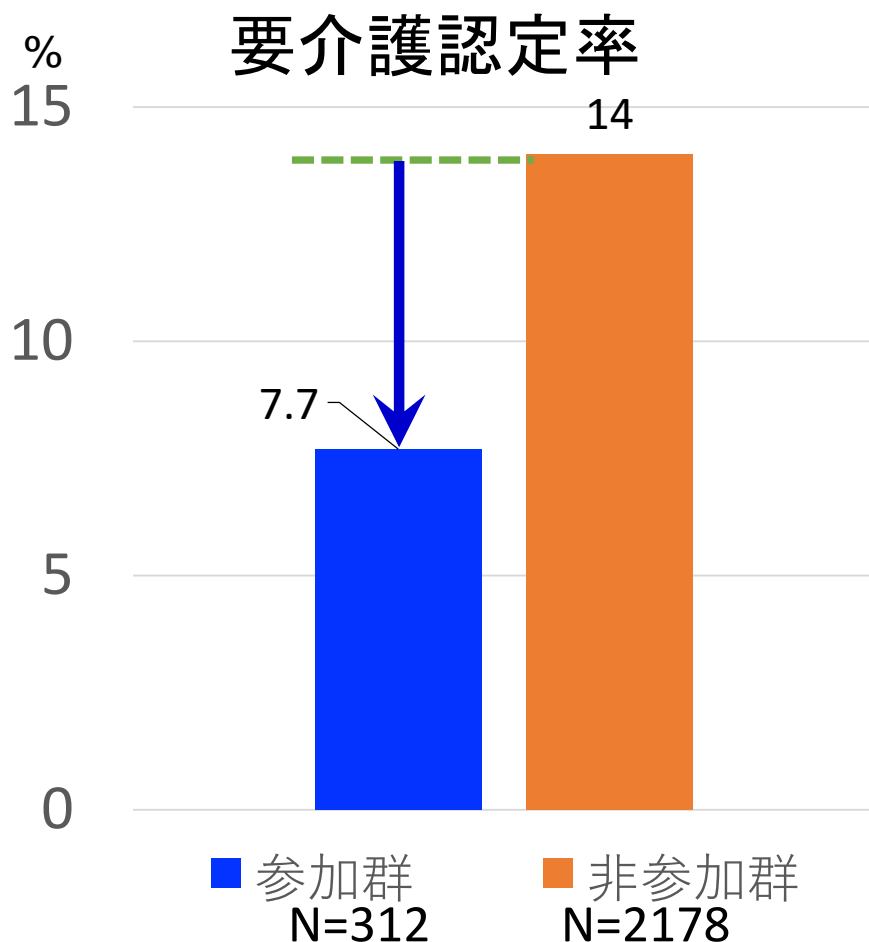
- | | |
|-----------------|-------------------|
| A) Ichida, 2013 | F) 竹田, 2009 |
| B) 平井, 2010 | G) Hosokawa, 2019 |
| C) 細川, 2017 | H) 阿部, 2021 |
| D) 大浦, 2016 | I) Hikichi, 2015 |
| E) 細川, 2016 | J) Hikichi, 2016 |

a～h)：複数市町をフィールド

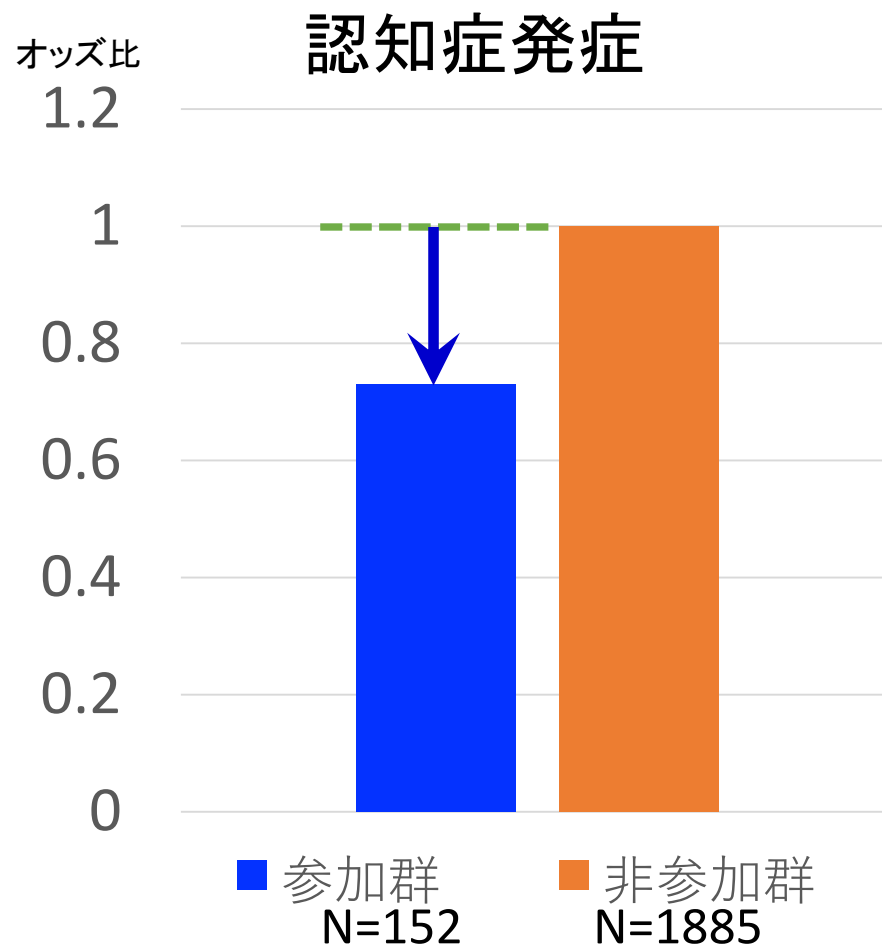
- | | |
|------------------|--------------|
| a) 井手, 2021 | f) 宮澤, 2021 |
| b) 井手, 2019 | g) 田近, 2021 |
| c) 加藤, 2020 | h) 東馬場, 2021 |
| d) 林, 2019 | |
| e) Sato K., 2020 | |

サロン参加群で要介護認定率・認知症発症は低い

2007年から2012年までの5年間で要介護認定率は約半分に（6.3ポイント）抑制



7年間の追跡でサロン参加群で認知症（認知症度ランク1以上）発症が3割減



Hikichi, H. et al.: Effect of community intervention program promoting social interactions on functional disability prevention for older adults: propensity score matching and instrumental variable analyses, JAGES Taketoyo study. Journal of Epidemiology and Community Health (doi: 10.1136/jech-2014-205345)

Hikichi, H., Kondo, K., Takeda, T., and Kawachi, I.: Social interaction and cognitive decline: Results of 7-years community intervention. Alzheimer's & Dementia: Translational Research & Clinical Interventions 3 (1): 23-32, 2017.

一般介護予防は、通いの場（社会参加型）へシフト

専門職などが主導
した介護予防教室

従前の介護予防（ハイリスクアプローチ）

行政が**提供者**・住民が**受給者**

狭義の通いの場

平成26年
地域づくりによる
介護予防

これからの介護予防（ポピュレーションアプローチ）

住民が**運営者**・行政が**支援者**

広義の通いの場

令和元年
厚生労働省一般介護
予防検討会指針

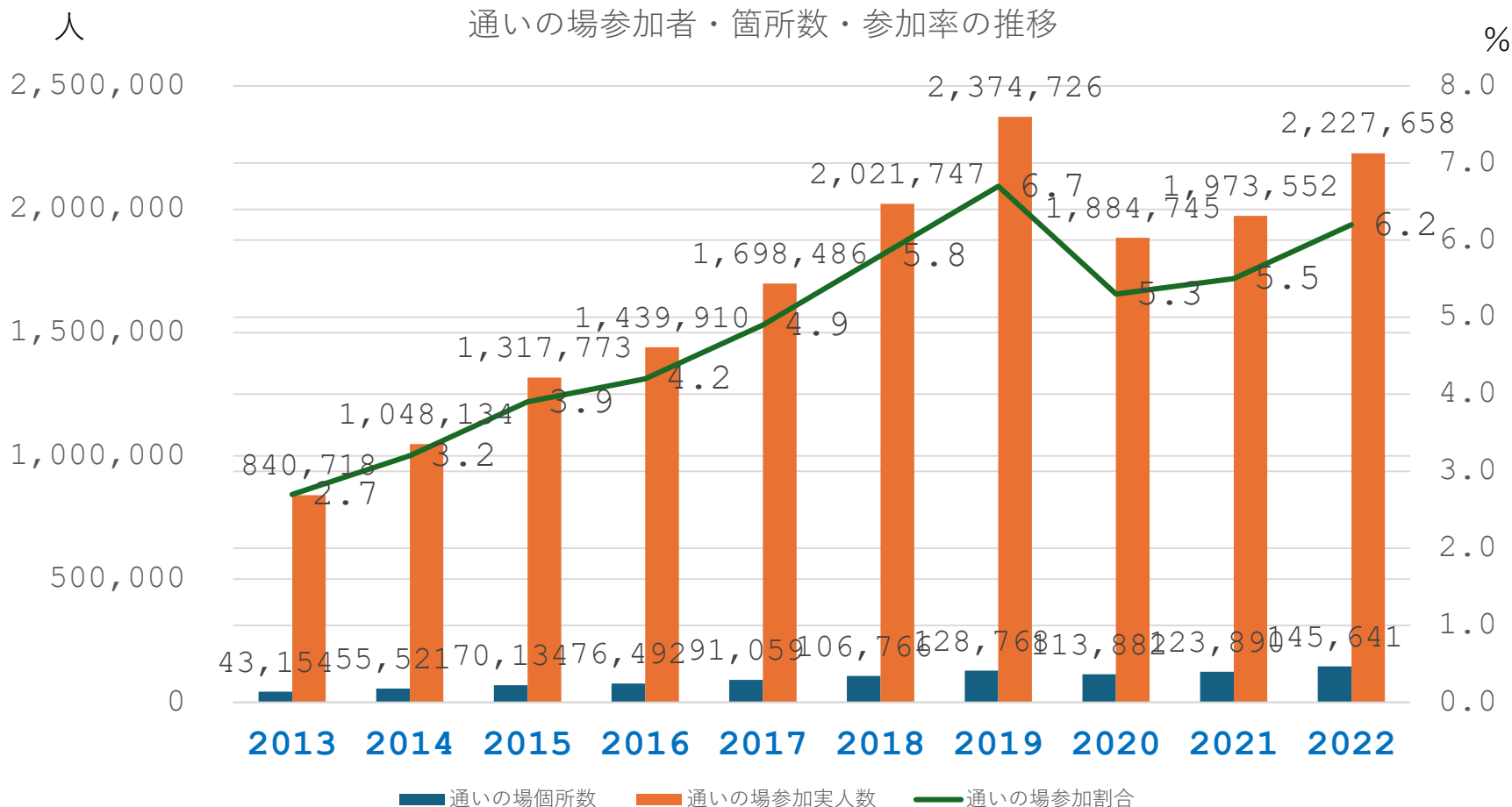
通いの場の**多様性・機能強化**
PDCA に沿った事業展開

住民主体の
「通いの場」

参加率目標：2025年までに8.0% (2020, 厚生労働省)

2013-19年で150万人増

2015-19年で100万人増



通いの場・箇所数：厚生労働省 介護予防・日常生活支援総合事業報告，介護予防に資する住民主体の通いの場の展開状況

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/yobou/index.html

高齢者数：総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査より

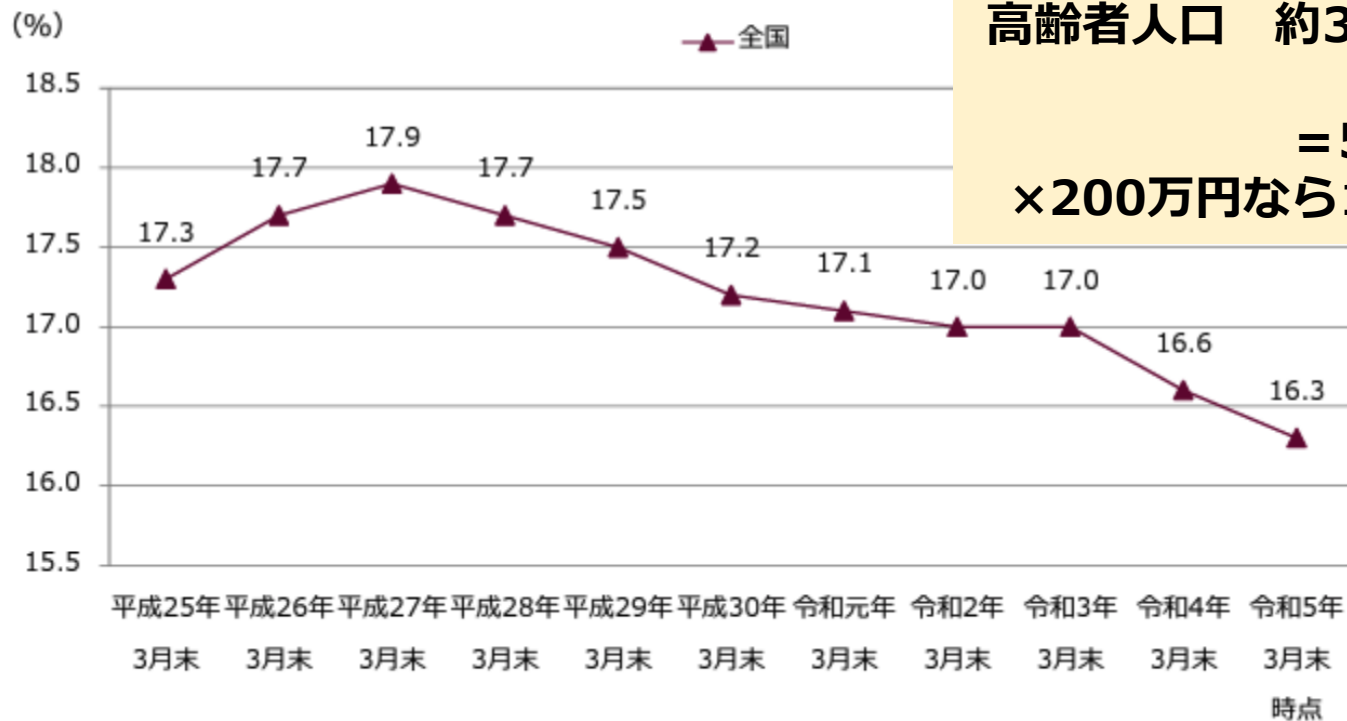
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200241&tstat=000001039591&cycle=7&tclass1=000001039601&tclass2val=0>

第1号被保険者の認定率（年齢調整後）の変化

（介護保険事業状況報告月報及び人口推計から作成）

- 要介護認定率はピーク時の平成27年3月末の17.9%から減少してきており、令和5年3月末には16.3%となっている。（平成27年3月末比▲1.6%）

年齢調整済み認定率（全国）



（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

厚生労働省「2040年に向けたサービス提供体制等のあり方」

現状と課題・論点について

<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/00137177>

一般介護予防は、通いの場（社会参加型）へシフト

専門職などが主導
した介護予防教室

従前の介護予防（ハイリスクアプローチ）

行政が**提供者**・住民が**受給者**

狭義の通いの場

平成26年
地域づくりによる
介護予防

これからの介護予防（ポピュレーションアプローチ）

住民が**運営者**・行政が**支援者**

広義の通いの場

令和元年
厚生労働省一般介護
予防検討会指針

通いの場の**多様性・機能強化**
PDCA に沿った事業展開

多様な「通いの場」の例

第2回 一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会(令和元年7月3日)
愛知県豊明市 資料

地域のあらゆる資源を活用した「通いの場」



無料送迎バスで天然温泉が通いの場
楽の湯みどり店(株ナカシロ)



高齢者が毎日通う喫茶店での見守り
市内70店以上の喫茶店



お寺のお堂で、男性が多く参加する健康麻雀
曹源寺



自動車販売店の商談スペースで毎日体操
名古屋トヨペット(株)豊明店

豊田市SIB

官民連携ずっと元気プロジェクト

豊田市 Toyota City

SIBs 社会都市とよた

シニア世代の明るい毎日を応援!
豊田市官民連携
介護予防

ずっと元気!
プロジェクト

人とつながり
まちとつながり

プログラム一覧

運動・健康・趣味など様々な“社会参加”プログラムが体験できます



スポーツ・健康



趣味・エンタメ



コミュニケーション・
就労支援 等

- ◆主な対象者: 豊田市にお住まいの65歳以上の方
- ◆実施期間: 2021年7月～2026年6月

2023年3月現在
約60プログラム

参加企業 / NPO等



毎日続けられる!

楽天シニアの運動、健康サービス

ごぼう先生と一緒に豊田市の皆さまのために作った「楽天シニアTYT体操」から、本格的なヨガ、管理栄養士による栄養相談、さらには健康セミナーまで、スマホで簡単に参加できるよ

お問合せ・参加申込み

楽天モバイル株式会社



Oh!達者健康カフェ - カラダ測定 -

「自分のカラダを知っていつまでも元気に」

管理栄養士による、カラダ測定・健康相談です。

無料で毎月開催しているので、お買い物のついでにお気軽にご参加ください!

定期的に自分のカラダをチェックしましょう!

お問合せ・参加申込み

株式会社スギ薬局



メガリアのカルチャー&スポーツ教室

カルスポでは、スポーツ・健康作り・趣味・教養と様々なジャンルから300講座を取り揃え、初心者から経験者まで楽しく学べるようレベルに合わせたコースを設定。気になったら気軽に観覧ください。(見学無料)

お問合せ・参加申込み

トヨタ生活協同組合 カルスポ

初心者・シニアのドローン教室

室内で楽しめる手のひらサイズのドローン操縦プログラムです。ドローンの操縦にスマホやタブレットも使用するのでも自然とスマホの操作にも慣れてきます。目と指先を使いながら、仲間と一緒にワイワイと楽しく操縦練習。安全に関する知識も身に付きます。

お問合せ・参加申込み

ドローンチームNadeshiko(なでしこ)



日本語で世界の若者を応援

日本語で気軽に多文化交流できるオンラインサービス「Sail(セイル)」世界の日本語学習者は日本人との交流を求めています。あなたの経験や知識を世界に人の伝えて、楽しみながら貢献しませんか?

お問合せ・参加申込み

株式会社Helte



ちゅうでん求人情報提供サービス

65歳以上の方も大歓迎! 中部電力では、地域の皆さま機会の提供を通じて生きたがりに貢献すべく、豊田市内で生涯現役に理解のある企業さまと連携しながら、定期的に求人情報を提供しています。ずっと働き続けたいあなた、ぜひ応募してみませんか?

お問合せ・参加申込み

中部電力

通いの場参加者割合(月1回以上)の市町村差は約4.7倍

バージョン コア

問6 参加している会やグループ、仕事についておうかがいします。

1)あなたは下記のような会・グループにどのくらいの頻度で参加していますか。

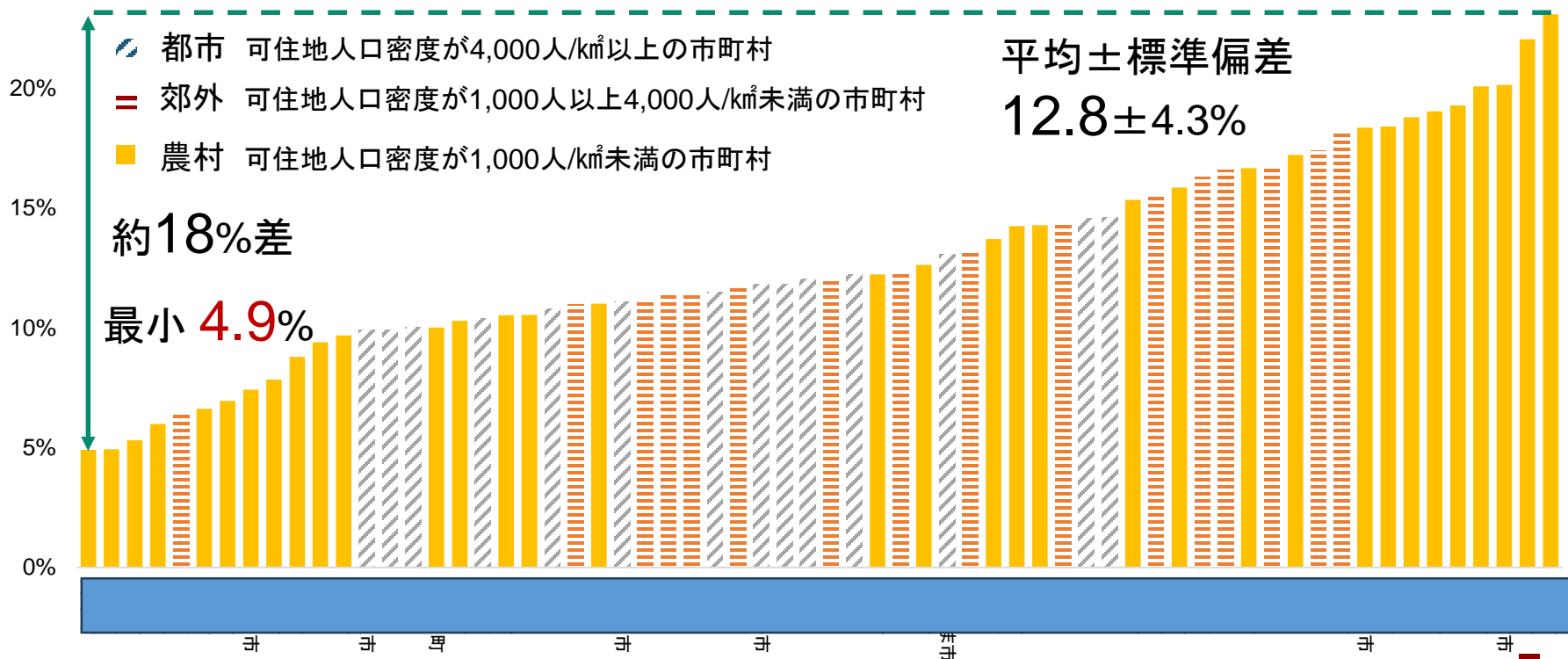
(7)健康体操やサロンなどの介護予防のための通いの場

N = 64

25% 年数回以上の参加者割合を市町村レベルで集計

最大23.1%

通いの場参加者割合



「通いの場」プログラム種類数が多い方が 予防効果大きい

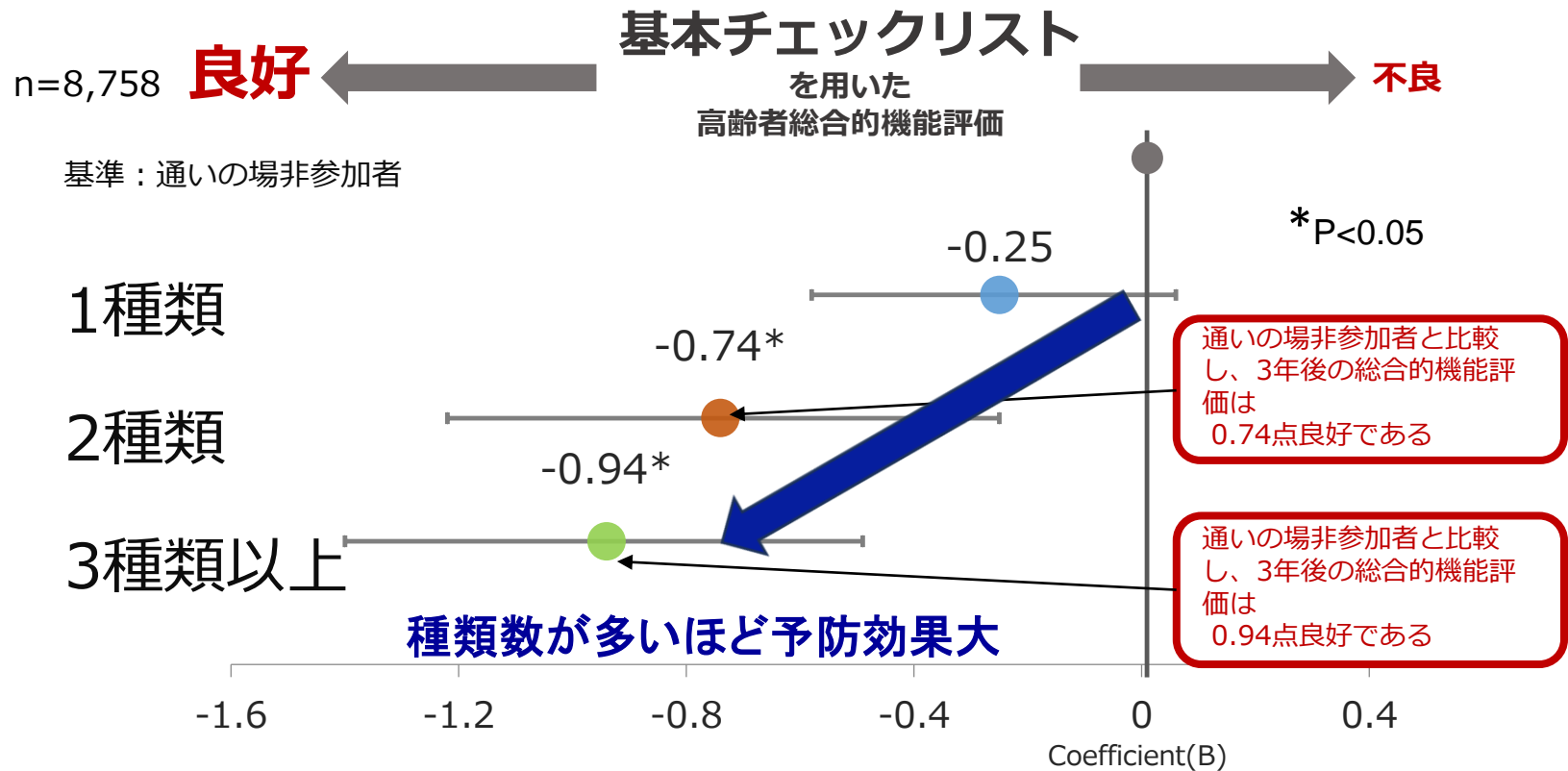


図. 通いの場プログラム種類数と
基本チェックリストを用いた高齢者総合的機能評価との関連
(28市町、約8,758人の高齢者を2016年から2019年の3年間追跡)

※以下の要因を統計的に調整し、Coefficient(通いの場非参加者と比較した点数の差の程度)を算出した。
左右のひげは 95%信頼区間を表す。
性、年齢、教育歴、等価所得、配偶者、独居、就労、喫煙、飲酒、疾病、基本チェックリスト総合計

PFS（成果連動型民間委託契約方式） / SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）

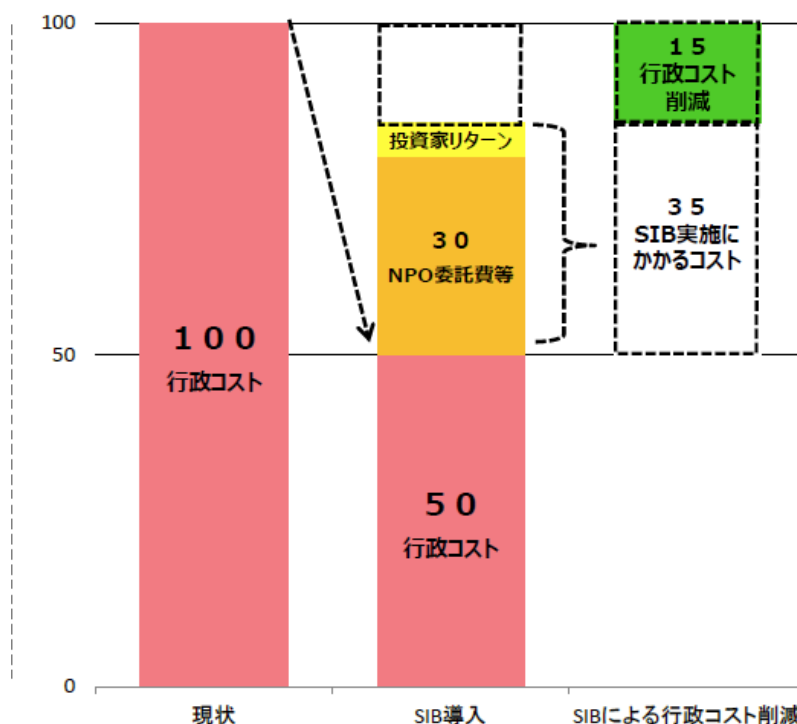
- SIBとは、民間資金を活用して革新的な社会課題解決型の事業を実施し、その事業成果（社会的コストの効率化部分）を支払の原資とすることを目指すもの。
- ニューヨーク市等では、民間事業者の活動の社会的インパクト（行政コスト削減等）を数値化し自治体等がその成果報酬を支払うSIBの導入が図られ、民間資金の活用が進んでいる。

効果が出て行政コストが低減

浮いた行政コストを原資に、その一部を民間事業者に配分

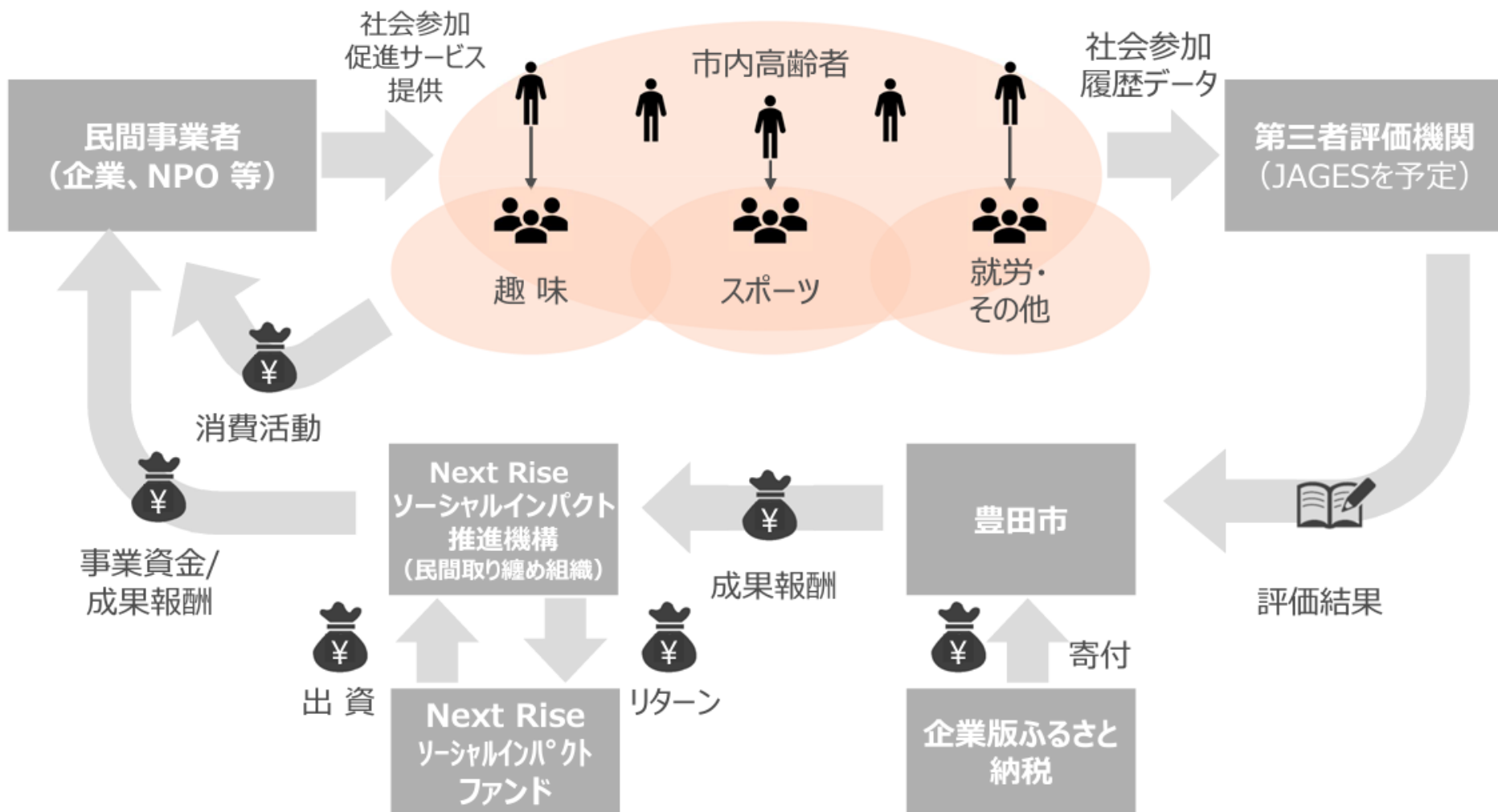
効果がなかった場合にも行政コストが減る

＜SIBによる行政コスト削減イメージ＞



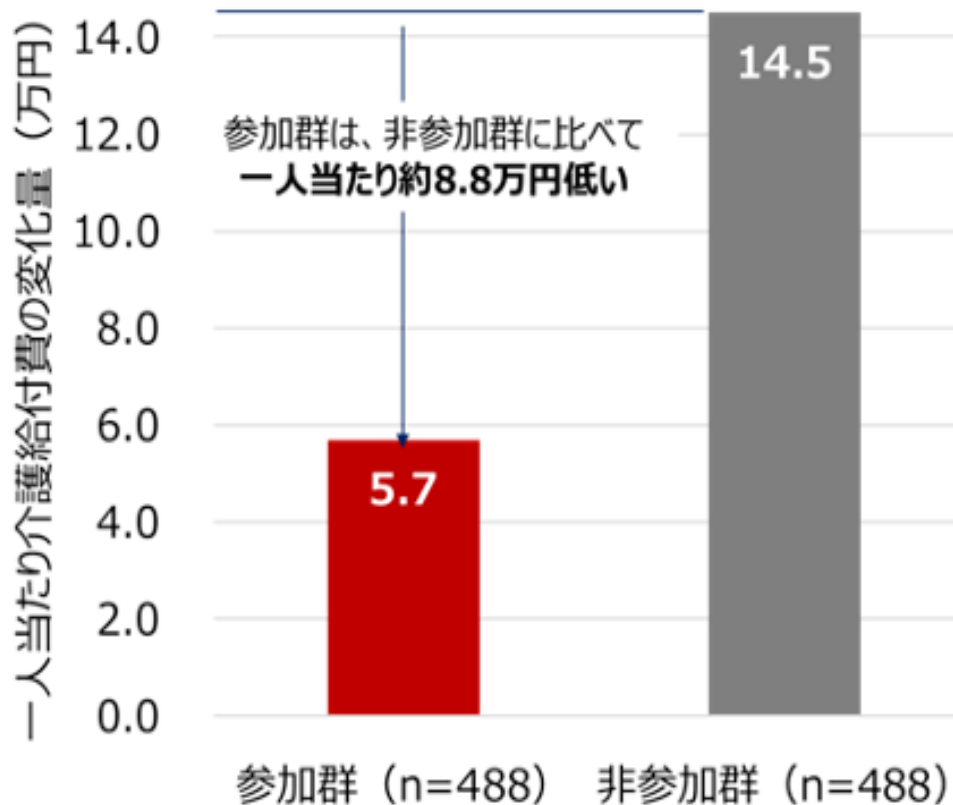
豊田市官民連携介護予防「ずっと元気！プロジェクト」のスキーム

SIBの仕組みを活用し、豊田市より委託を受けたNext Rise ソーシャルインパクト推進機構が、民間取り纏め組織として本プロジェクトを推進



Next Rise Social Impact Action

豊田市SIBの 介護費抑制推定額は3.7億円以上 2年間の中間評価



傾向スコアでマッチング後
性、年齢、要介護リスク、居住地、国民
健康保険・後期高齢者医療制度の被保
険者(保険料区分)を用いた

- 1人当たり約8.8万円抑制
- 2年間の実参加者:4188人
- $8.8\text{万円} \times 4188\text{人} = 3.7\text{億円}$
- 介護給付費抑制額は6年間で
3.7億円より多いと推定
- 3年目以降の参加者は不算入
- 9年間なら約2倍と見込むと
 $= 7.4\text{億円より多いと推定}$

HOME

JAGES

自治体

見える化

研究者

共同プロジェクト

ライブラリー

日本老年学的評価研究機構

▶ 自治体

▶ 介護：JAGES調査2025

▶ 健康とくらしの調査 説明会

▶ 保険者共同研究会

▶ 日本公衆衛生学会・自由集会

▶ 見積依頼

健康とくらしの調査



JAGESでは、地域包括ケアシステム構築に向けて、ボランティア参加意向者が多い地域の把握など、介護予防・日常生活支援総合事業（新しい総合事業）などを戦略的に推進していくための科学的根拠と、共同研究に参加する保険者支援を目的に、全国規模で「健康とくらしの調査」を介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の時期に合わせ3年に一度実施しています。

一般社団法人JAGES機構では

- 2025年ニーズ調査を80超市町村と共同実施
- 介護予防政策の効果評価・伴走支援
- 5月に説明会開催します
- 問い合わせ・参加申込は

開催案内は

<https://www.jages.net>

chosa.ml@jages.net

まとめ

- 多くの通いの場には効果がある
- 介護予防政策の変遷
 - ハイリスクアプローチからポピュレーション（環境を変える）アプローチへ
 - 行政主体から住民主体の「通いの場」へ
- これからの通いの場
 - 産業界も巻き込み多様な「通いの場」へ
 - データを活用し効果を評価してPDCA回す
 - 内閣府が進めるPFS/SIBの活用を

Pay For Success（成果連動型民間委託契約方式）

Social Impact Bond（ソーシャル・インパクト・ボンド）